

1 学校教育目標 豊かな人間力をそなえ、自ら学ぶ たくましい子どもの育成	2 本年度の重点目標 1. 心の教育の推進 2. 学力向上の推進 3. 地域連携教育の推進
--	---

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価

① 魅力ある授業づくり(授業づくり)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
学校運営	教職員の指導力向上	校内研修・授業研究会の充実	○校内研修で、研究主題を「主体的な学びの創造」とし、国語を中心に研究を進める。自分の思いを確実に伝えるために聞く・書く・話す活動を取り入れた言語活動の充実を目指し、授業実践に取り組む。さらに、児童自らが課題意識を持ち、その課題を解決するための活用の場を取り入れた授業のあり方を研究授業を中心に研究を行う。 ○全員が研究授業を行い、研究の目標にあった授業作りに取り組む。	・国語科学習に関する児童への意識調査・実態調査を行い、児童の実態に合った授業を構築していく。 ・自ら考え、伝え合う言語活動を育む環境作りの推進として、国語タイムの計画と実施を行う。また、言語感覚を養うための校内環境整備につとめる。	まなび部	中野あ
教育活動	●学力向上	国語科・算数科を中心とした基礎基本の徹底	○学期末テスト90点以上が全体の80%以上を目指す。 ○「学びのスタイル」における「筆箱の中身」の整頓と朝の「姿勢タイム」参加率を80%以上の児童に定着させる。	・学力調査等を分析して、課題を明確にして、解決するための手立てを講じる。(研修会1回以上) ・学期末テスト90点以上を合格とし、合格証を渡す。 ・スキルタイム(国)を設定し、作文プリント等語学力を高めるためのプリント等を用意し、言語力の定着を図る。 ・生活習慣のチェックカードを全クラス使用し、筆箱等の学習用具や正しい姿勢、学習態度の定着を図る。	まなび部	主幹
	◎教育の質の向上に向けたICT利活用教育の実施	授業における指導方法の改善	○電子黒板、デジタル教科書、書画カメラ、パソコン室のタブレットPCを日常の授業で活用し、調べ学習や表現活動を行う。 ○情報モラルの教材を活用した授業を毎学期実施し、ネット上でのマナー、個人情報保護など発達段階に応じた指導を行う。	・電子黒板の機能や、付属の機器の使用方法やネットモラルについての研修を年3回以上行い、教職員のICT機器に関わる危機管理意識の啓発とスキルアップを図る。 ・ネットモラル検定を行う。正答率の低かった問題については、教材を活用して情報モラルの指導を進める。	まなび部	指導教諭
	外国語活動	外国語活動の充実	○外国語活動を楽しんでいる児童を85%以上にする。	・5・6年では、ALTとの協力で活動的な要素を取り入れた授業に取り組む。 ・1年～4年生までのクラスでALTと担任による「外国語活動」の時間を1時間以上設定する。	まなび部	長友

② 道徳・人権教育の推進(心づくり)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動	●心の教育	道徳・人権・同和教育などを核とした心を育てる指導の充実	○人権・同和教育を全教育課程の根拠とした教育活動を構築する。 ○子どもたちの自己肯定感を高める教育実践を重ねる。	・人権教室(年5回)・人権集会(学期に1回)・道徳等の授業を通して、子どもたちに人権尊重の感性を育てる。 ・参観日やフリー参観日において、全校道徳授業や人権学習等を公開する。(地域連携) ・子ども同士の認め合いの場を設定し、ほめ言葉を増やす取り組みを行う。	こころ部	永淵
	●いじめの問題への対応	いじめの早期発見・早期対応に向けた体制作りの充実	○担任を中心に実態把握に努めるとともに、教育相談体制を充実させ、スクールカウンセラーや保護者との連携を図る。	・生徒指導協議会、教育相談部会等を利用し、職員間の共通理解を図る。 ・Q-Uテスト(6月、11月)で学級における人間関係をつかむとともに、いじめに関するアンケート「〇月のわたし」や、ほっとタイムで実態をつかむ。 ・いじめが分かった初期の段階で、職員で事実確認をし、対策の検討および指導を行う。	こころ部	徳永
	環境美化	校内・校外の環境・美化活動の充実	○ごみが落ちていない美しい学校をめざすとともに、ゴミの減量化、節電を中心とした環境ISOに取り組む。 ○掃除の始まる時刻を意識し、集中して活動することで、一生懸命に取り組む児童を育成する。	・ごみを落とさない、ごみを進んで拾うように指導する。 ・無言掃除を行い、集中して掃除に取り組めるように掃除の方法や手順を指導する。 ・掃除の始まり、無言そうじの内容、片付け等について、学年で決めた様式で反省する時間を毎日持たせる。その反省カードを使って、グループやクラスで認め合ったり励ましあったりする活動を週一回以上行わせる。 ・ゴミの分別や記名の徹底を図るとともに、裏紙の再利用などに努める。 ・節電、節水を心がけ、省エネ・省資源に努める。	こころ部	飯盛
	読書指導	学校図書館の活性化と読書指導の充実	○目標を達成しやすくするために学期ごとに目標冊数を提示する。 ○学年にあった本(必読図書)を、7割の児童が目標冊数を達成できるようにする。	・学級全体の貸し出し数を増やすために「めざせ〇冊などの取り組みを推進し目標冊数に達した児童に賞状を準備する。 ・「朝の読書タイム」、読み聞かせの時間を全校あげて設定する。 ・各学年の必読図書を読むよう推進し、目標達成者を表彰する。	まなび部	南
	交流活動	縦割り活動における異学年交流や、ろう学校との交流会の充実	○「わいわいタイム」での異学年交流活動を充実する。 ○ろう学校に出向いたり、来てもらったりして交流を実施する。 ○地域(老人センターや保育園)に出向いて交流を実施する。 ○各学年で、具体的目標を定めて、交流を行う。	・春の遠足、運動会、縦割り遊び、ありがとう会食会等の活動を通して、異学年交流に取り組む。 ・ろう学校児童を学校や授業などに招待したり、出向いたりして交流を行う。 ・ろう学校の児童と手紙などのやりとりを行い、交流を深める。 ・交流委員会を中心に地域との交流を行う。	こころ部	皆良田

③ 生徒指導・教育相談・特別支援教育の充実(心づくり)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動	特別支援教育	配慮を要する児童についての共通理解	○特別支援教育関係等機関の講師を招いての研修会を開催する。(年1回) ○校内支援会議を適宜開催し、特別支援教育の充実を図る。	・個別の教育支援計画・個別の指導計画の作成と、共通理解に基づいた支援を行う。(月1回) ・配慮を要する児童への校内支援体制の取り組みを行う。 ・支援の手立てについて共通理解したことを、対象の児童の指導・支援に活かす。	こころ部	山崎

④ たくましい体と粘り強い心づくり(体づくり)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
学校運営	危機管理	不審者対応、災害時(大雨、台風、地震、大雪等)における緊急時の組織づくりと具体的対応	○大雨や台風、地震、大雪、不審者事案等、実際の事象や事例に基づいて指導をすることで、児童の防災・防犯の意識を高める。 ○安全な避難に重点を置いた、危機管理体制の充実を図り訓練を実施する。(年3回)	・各種事例に対応できるように危機管理マニュアルを更新し、児童と職員を対象とした実践的な防災・防犯訓練を行う。 ・現在ある安全マップを更新して活用し、校区内の危険箇所の点検を実施するとともに地域のひとと協力して登下校の安全確保に努める。また安全についての児童の意識化に努める。(毎週金曜日、当番職員で下校指導に当たる。) ・安全ボランティアと協力し校区あげて安全指導に取り組む。 ・校内の安全点検を毎月1回行い、児童が安全に生活できる環境をつくる。 ・緊急連絡メール登録による迅速な連絡体制を整える。	こころ部	徳丸
教育活動	●健康・体づくり	体育・学級活動・保健指導など、授業実践	○学級活動で、保健指導、食に関する指導等において、養護教諭や栄養教諭による専門的な指導(各年間3回)を行い、健康な体づくりへの関心を高め、行動変容への意欲につなげる。 ○外部講師の活用を積極的に行う。(年3回) ○保健タイム等を通して、児童に各担任が指導を行う(年3回)	・健康教育については、担任と養護教諭などのTTIによる授業を行う他、歯科校医や外部講師を招いた授業を行う。 ・運動の大切さについて、体育や保健指導を通して、担任が行う。 ・給食マナーや食生活の大切さについての指導を、栄養教諭が年に3回以上行う。 ・学期に1回、朝の時間に「保健タイム」を各担任が行う。資料については、児童保健委員会と養護教諭が作成した保健指導用スライドを使用する。	すこやか部	宮原

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
学校運営	学校経営	本年度の重点目標の周知	○教職員、児童、保護者、地域住民に周知する。保護者の認知度を80%以上にする。	・職員会議、全校集会等で説明したり、校内に掲示したりする。 ・保護者や地域住民へは、ホームページへの掲載、学校パンフレット配布及び学校便り、PTA総会、学年・学級懇談会等で周知し、具体的取組について説明する。	こころ部	教頭
	開かれた学校づくり	学校教育活動の情報発信 地域人材活用	○ホームページ更新、学校便り等で、「開成文化祭」の計画、準備を進める。 ○地域の人・もの・ことに積極的に関わる学習を学年で年2回以上行う。	・ホームページを月1回以上更新する。月末を更新時期と定め、更新を促していく。また、学校便りを月1回以上発行する。 ・ボランティアの拡大と地域人材の発掘を行い、活動の促進と工夫を行う。	すこやか部	中野か
特定課題	幼・保・小・中連携	幼・保・小・中連携による学校生活へのスムーズな移行	○幼・保・小・中間の連絡会や授業交流を進める。(年間4回) ○小・中間の生徒指導の情報交換を行い、連携の強化を図る。	・わくわく訪問の参観後や幼保小連絡会連携会議で幼稚園・保育園との情報交換を行い、相互理解を図る。 ・1年生と園児との交流会や学校体験活動により、スムーズな接続を図る。 ・小6から中1へのスムーズな移行をめざし、「体験入学」や授業交流の改善を図り、実施する。また、小・小交流(6年)を行い、友だち関係に対する不安を除く。 ・小・中合同の連絡会議を学期毎に行い、生徒指導に関する情報の提供を進めるなど連携をとりながら問題の解決を図る。	すこやか部	前山

●は共通評価項目のうち必須項目、◎は共通評価項目のうち特定課題、○は独自評価項目